

西屋城の合戦⑥

西屋城の周辺には合戦にまつわる様々な伝説が残されています。

① 若子様



若子様 (女原)

われ、今でもおもちゃの刀などが供えられています。

② 下の坊



下の坊 (杉)

若子様の対岸、杉橋を渡ってすぐの左側にある石碑の場所が下の坊とよばれる場所です。石碑には「安永五年 贈慈眼院本覚 霊 十二月廿八日」と刻まれており、碑銘から西屋城合戦から約二〇〇年後の安永五年（一七七六）に建てられた僧侶の墓碑だと思われますが、地元の言い伝えでは、若子様が殺害された後、対岸に逃れた乳母もしくは母が殺害された場所と言われています。

③ 上の坊

杉の梅本山観音寺から南西に延びる谷の奥に小さな石碑があります。『作陽誌』には「杉村上房に砲場があり、西屋城合戦の時の遺跡である」と書かれています。



上の坊 (杉)

う」と書かれています。『苦田郡誌』には斎藤近実の墓とされていますが、先月号で述べたように近実は後に祝山城に在城していますので、この記述は誤りです。地元では近実の養子の内蔵丞久親か平井助之進利政が死亡した地と伝えられています。

平井助之進は、備前国赤土山城主で宇喜多家に仕える武将ですが、『美作古城史』によると、平井家の家記に西屋城合戦時に軍監として派遣され、落城の際に討ち死にし杉村観音寺に葬ると書かれています。軍監とは、戦場で将兵の監視や手柄などを確認し主君に報告する軍目付とも呼ばれる役職です。

岡山市中区平井にある平井山妙広寺は、平井助之進が両親の菩提を弔うため再建したといわれ、寺伝にも苦田郡西谷（屋）城に軍監として派遣され、天正一〇年（一五八二）一月十七日に落城の際に戦死したと伝わっているようで、これらの記録からも平井助之進の戦死の地と考える

のが妥当でしょう。

「下の坊」「上の坊」はその地名から、本来は僧房（＝僧坊、僧侶の居住する建物）が存在した可能性が考えられます。『作陽誌』で砲場とされているのも、僧坊跡の石垣や土台がそのように解釈されたのかもしれない。

④ 六万河原

久田地区の吉井川の河畔で、現在は苦田ダム管理区域となっており、かつての面影はありませんが、ここで毛利方が近隣の百姓を河原に集め、夜間にかがり火の中で行き来させているのを西屋城の宇喜多方の将兵が見て、六万の大軍が押し寄せてきたと勘違いして城を捨てて逃げたという伝説からこの名がついたと言われています。

これらの他にも、ほ場整備前に杉地区の水田の傍らに点在していた古墓は西屋城の戦死者の墓だといえる伝えもあります。このように現在に至るまでに様々な形で伝えられるほど、西屋城の合戦は地域の人々に大きな衝撃を与えた出来事であったようです。

参考：『作陽誌』『奥津町史』『美作古城史』、宗教法人日蓮宗平井山妙光寺HP

鏡野町教育委員会 生涯学習課 日下
電話(0868)54-7733